様々な分野で、
いつでも手軽に正確に計測。

USABILITY—装着は簡単・自在

センサ部分にクリップを取付けて挟んだり、テープで固定して計測できます。

耳朶に挟む

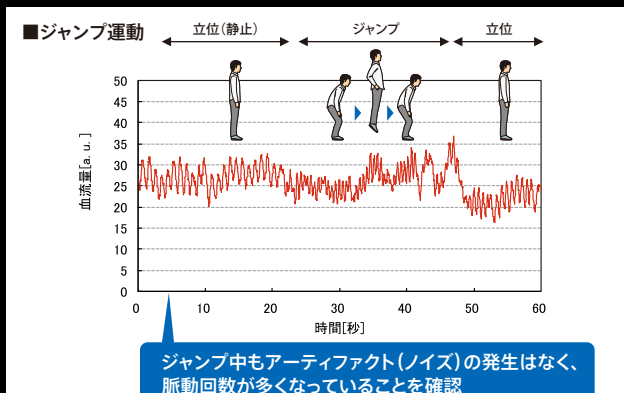
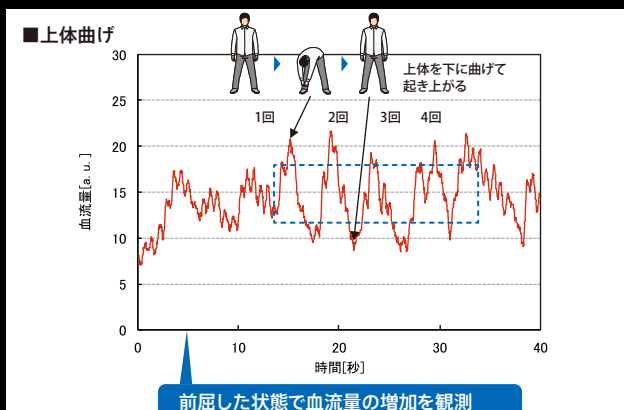
指に挟む

テープで固定する

USE CASE—様々なシーンでの計測に対応

<耳朶にプローブを装着して軽い運動を行った時の血流変化>

前屈した状態で血流量の増加を観測

ジャンプ中もアーティファクト(ノイズ)の発生はなく、脈動回数が多くなっていることを確認

仕様

商品名	研究用レーザ血流計
型番	本体:RBF-101、プローブ:RBF-P101
レーザ波長	850nm
測定項目	血流量
測定特性	〜100mL/min
測定精度	±5%F.S.※以内
電源	ACアダプタ(入力 AC100V、出力 DC5V) 内蔵リチウムイオン電池(動作時間 5時間)
消費電力	25VA以下
寸法・質量	本体:65(W)×25(D)×110(H)mm、135g プローブ:ケーブル長 1,500mm、30g
使用環境条件	温度 10〜40℃ 湿度 30〜75%RH(結露なきこと) 気圧 760〜1060hPa(標高2000m以下)
輸送・保存環境条件	温度 -20〜50℃ 湿度 10〜85%RH(結露なきこと) 気圧 760〜1060hPa(標高2000m以下) 保管方法 高温、多湿、直射日光、水漏れ、腐食性ガスを避け、室温で保管。
電磁両立性(EMC)	VCCI クラスB

※本装置のフルスケールである、100mL/minでの%【百分率:パーセンテージ】

⚠ 安全に関するご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ず「取扱説明書」をお読みください。
本製品は研究用であり、医療機器ではありません。

●水、湿気、湯気、ほこり、油煙などの多い場所に設置しないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。

お問い合わせ pioneer.jp/bloodflow/

カタログや取扱説明書は、こちらのホームページからダウンロードが行えます。

●このカタログに掲載の仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。●写真の製品の色は、印刷により実際の色とは異なって見える場合があります。●ホームページにてカタログ請求も行っております。●Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、BluetoothSIG,Inc.が所有する登録商標であり、パイオニア株式会社は、これらの商標を使用する許可を受けています。

この印刷物には環境に配慮した植林木の用紙および植物性大豆油インキを使用しています。

パイオニア株式会社
〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1-1

取扱店

このカタログの記載内容は2015年 6 月現在のものです。

研究用レーザ血流計

RBF-101(本体)
RBF-P101(プローブ)

原寸サイズ

pioneer.jp/bloodflow/

本製品は研究用であり、医療機器ではありません。

非医療機器

血流計測の可能性を、広げる。

たとえば、運動をしている時。たとえば、車を運転している時。
動的環境下において血流計測ができれば、
どんな行動や要因によって血流が変化するのかを
知ることができます。
気温や温度による身体の反応も、
血流値から読み取れるかもしれません。
大切な生体情報である血流を、もっと身近にするために。
これまでの常識を変える新しい血流計が、
パイオニアから誕生しました。

研究用レーザ血流計とは

皮膚表面から皮下組織に向けてレーザ光を照射し、生体を傷つけることなく微小循環（細動脈、毛細血管、細静脈）の血流量を測定できます。微小循環の血流量は、血液が身体の末梢まで滞りなく流れているかを示す重要な生体情報であるという認識が広まっています。

片手で持てるコンパクトサイズに、あらゆる技術を結集。

WEARABLE

装着しながらいつでも測定

わずか135gと軽量な本体にリチウムイオン電池を内蔵し、バッテリー駆動が可能。
小型血流センサ素子の搭載により、
プローブヘッドを薄型・小型軽量化しました。

WIRELESS

データを手軽に転送

無線機能（Bluetooth®）搭載により、外部機器との接続が簡単に行えます。

STABILITY

体動によるノイズを低減

アーティファクトの少ないファイバレスプローブを採用しています。

SYSTEM

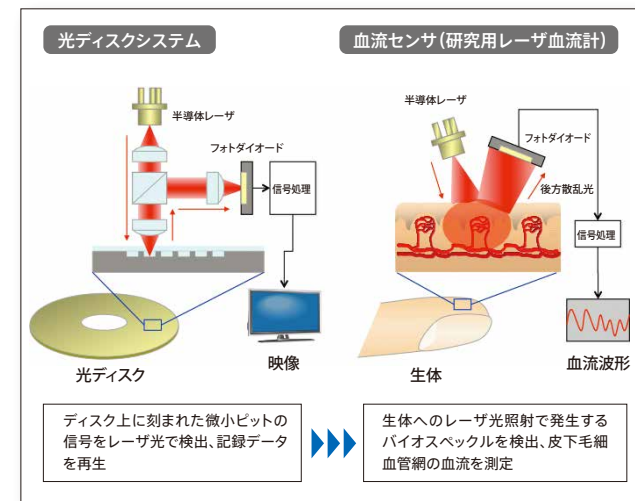
測定データをPCへ

Bluetooth®またはUSB接続により、測定した血流速情報をPCへ転送できます。 ※本製品にUSBケーブルは付属されていません。

PCとの通信方法等の情報をご希望の方は、裏面のお問い合わせ先までご連絡ください。

パイオニアだから生まれた、小型でウェアラブルな研究用レーザ血流計。

光ディスクシステムで培った技術を応用

測定結果のアーティファクトを低減し、日常生活やスポーツ時などにも使用できるウェアラブルな血流計を開発するため、パイオニアが長年培ってきた光ディスクの読み取り技術を応用しました。

自社開発の小型血流センサ素子を搭載

プローブに内蔵した小型センサを体表に接触させ、血流量を測定します。独自のセンサ回路によるアーティファクトの低減や、本体の小型化・軽量化にも成功し、ウェアラブルで動作を行いながらも安定した血流計測が可能となりました。

本製品は研究用であり、医療機器ではありません。